

## 平成22年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A14	取組 名称	学校裏サイト等の監視支援システムの実用化
研究代表者： 生命環境科学研究科 教授 吉富 康成			
研究担当者： 京都府立大学（田伏 正佳、浅田 太郎 ほか） 外部分担者・協力者（京都市教育委員会 生涯学習部 小林 圭吾 氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都市教育委員会 生涯学習部			
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>インターネット上に書き込まれている「いじめ語」を検出するシステム(以下、「本システム」と表記)を開発した。そして、京都市教育委員会および京都市立の小、中、高等学校と協働して、京都市で本システムの実用化研究を進めた。平成22年9月から平成23年3月の期間、京都市立の小、中、高等学校のうち、9校のモデル校について、学校裏サイト等（約300サイト）の監視を行い、必要に応じて、京都市教育委員会に通報を行った。また、同期間、「いじめ語検出結果 月例報告」を、京都市教育委員会に月1回提出した。これらの活動を基に、本システムの実用化の礎を築いた。また、「注意語」（「死にたい」など）にも、監視対象を広げ、あわせて、本システムの高効率化の指針を得た。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>本システムの試行の結果として、1台のパソコンを用いて、一人の担当で、計300校程度の小、中、高等学校について、学校裏サイト等の監視を、1日1回行えることが明らかになった。また、システムの高効率化に必要な要素技術が明らかになり、平成23年度の研究課題とした。</p> <p>試行期間で平均して、9校のモデル校で合わせて、3日に1件程度の「問題のある書き込み」を、京都市教育委員会に通報した。通報内容は、友人、教職員、親に対する誹謗中傷、対象が明記されない誹謗中傷、自傷願望、などであった。</p> <p>「いじめ語指数」の提案と利用、「通報」の必要性に応じたサイトの分類と判定、「いじめ語」および「注意語」のバックカラー表示と該当箇所へのジャンプ機能の付加、など、本システムの効率的運用のための技術開発を行った。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・H22/6/5 京都市 国立京都国際会館 科学・技術フェスタ in 京都 -平成22年度産学官連携推進会議でシステムを出展</li> <li>・H22/9～H23/3 京都市のモデル校9校について、学校裏サイト等を監視し、必要に応じて、京都市教育委員会に通報</li> <li>・H22/9～H23/3 「いじめ語検出結果 月例報告」京都市教育委員会に月1回提出</li> <li>・H22/6/9～18 マスコミ(京都新聞、大阪読売新聞、大阪毎日新聞、NHK、京都放送)で報道</li> <li>・「「いじめ語」検出による学校裏サイト監視支援システム」, 第9回情報科学技術フォーラム講演論文集, Vol. 3, pp. 679-680, 2010.</li> </ul>			
<b>【お問い合わせ先】</b> 生命環境科学研究科 情報伝達システム学研究室 教授 吉富 康成 Tel: 075-703-5432 E-mail: yoshitomi@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)

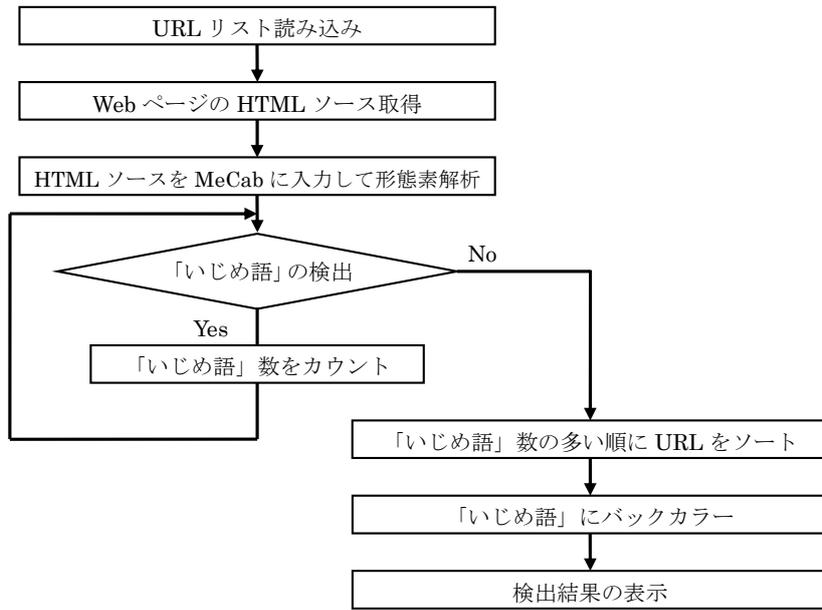


図 1 処理の流れ

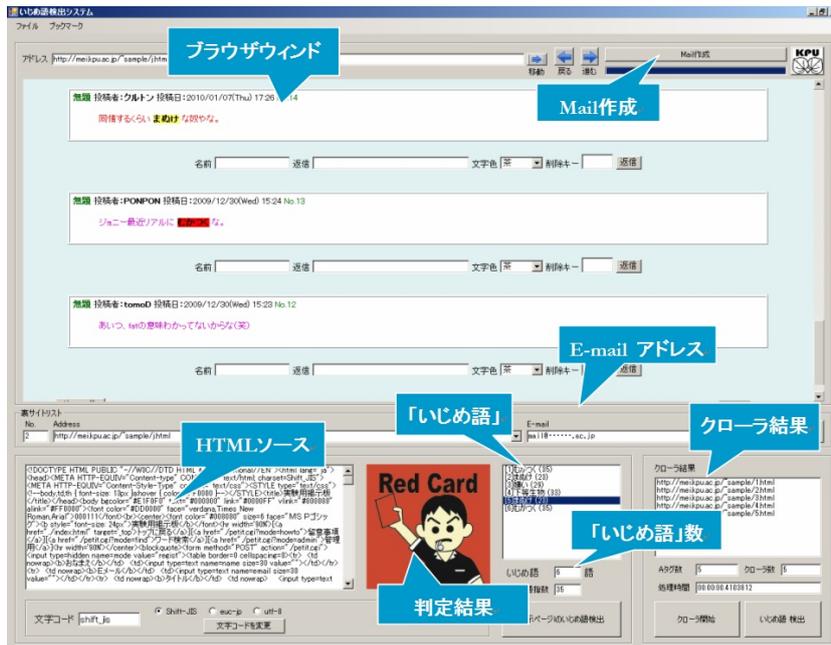


図 2 システムの実装フォーム

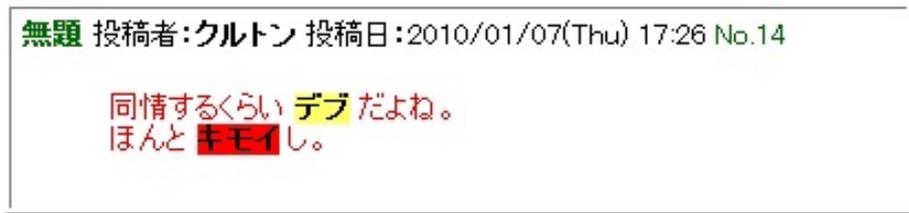


図 3 「いじめ語」にバックカラーのついた Web ページ